



第5回講座

知っておこう！ 小学校英語指導の心得

明海大学 金子義隆

知っておこう！小学校英語指導の心得

1. 音声インプットが習得のはじまり。
2. 英語が楽しいという気持ちを持続させるためには。
3. 英語嫌いにさせないためには。

1. 音声インプットが習得のはじまり。

- 第二言語習得研究から
- 目標言語のインプットを受けることが習得のはじまり
- 目標言語 = 英語
- 音声インプットが重要

言語とは音声ありき

- 世界には約8千語あるといわれる。
- 文字のない言語は多いが、**音声のない言語は存在しない。**
- **文字は二次的。**
- 英語の指導は、音声インプットを与える活動から始める。
- 例：ティーチャートークやスモールトーク、歌、チャンツ、絵本の読み聞かせ

インプットと意味を結び付ける

- **インプットの意味づけ**が必要。
- 絵や写真、実物などの活用。
- **デジタル教科書**の活用。
 - 絵や写真、動画、歌、チャンツ、絵本など
- 日本語を媒介としないで、**英語と意味を直接結び付ける工夫**が必要。

コミュニケーションの場面を大事に

- 宮崎県の小学校6年生のクラスでの岩切先生の場面設定。
- It's cold. It's winter. Winter vacation!
- Jake-sensei, tell me about your winter vacation.
- Do you remember your winter vacation? Let's go!

言語知識の2重構造： 宣言的知識と手続き的知識

- 宣言的知識：言葉で説明できる知識
 - 例：英語の過去形には動詞の末尾に ed を付けると説明できる知識。
- 手続き的知識：実際に使いこなす知識
 - 例：日本語の格助詞「は」や「が」を正しく使い分ける知識。
- 英語教育では、英語の手続き的知識の習得を目指す。

スパイラル的授業展開のすすめ

- 新しいインプットに出会い、インプットに慣れながらアウトプットしていく**スパイラル的**（**何度もインプットに再会する**）授業展開
- ①新しいインプットに出会う活動
 - ②インプットに慣れながらアウトプットする活動

①新しいインプットに出会う活動

- 宮崎県の小学校6年生のクラスでの岩切先生のスモールトーク

I went to Udo Shrine.

I enjoyed throwing lucky stones.

I ate shabu-shabu.

It was delicious.

How about you?

- 先生たちのスモールトークが子どもたちの単元の目標

② インプットに慣れながら、アウトプット活動

- 1~2時間目：“I went to the sea. (It was beautiful.) How about you?”
 - Mountainやfun以外にも、子どもたちが実際に行った場所や気持ちをやり取りを通して英語で言えるようにする。
- 3~4時間目：“I went to the sea. I enjoyed swimming. It was fun. How about you?”
 - Camping以外にも、前時と同じように子どもたちから言いたいことを英語で言えるように。
- 5~6時間目：“I went to the sea. I enjoyed swimming. I ate shaved ice. It was delicious. How about you?”

2. 英語が楽しいという気持ちを 持続させるためには。

- 英語学習の動機付けが大切。
- 小学校5・6年（70.9%）
- 中学1年（61.6%）
- 中学2年（50.3%）
- Here and nowの動機付けのススメ。

「平成26年度 英語教育改善のための英語力調査事業報告」

3 段階の動機付け

① 行動前（授業前）段階

- 「英語はやれば誰だってできる」信念を持たせる。
 - どうせできないと思っていたら、だれもやる気にならない。
- 「英語は間違いながら上手になる」信念を持たせる。
 - 間違いは学びのチャンス。
 - Nothing to lose 精神
 - 間違っても恥ずかしくない、バカにされないクラスの雰囲気を作る。

3 段階の動機付け

② 行動（授業中）段階

- 「できた」「わかった」という体験をたくさん積む場面を作りましょう。
 - 成功体験が自己肯定感を高める。
 - 高い自己肯定感を持っていると、前向きに取り組むことができる。
- たくさんほめましょう。
 - 自尊心、自己肯定感ほめることで強くなる。
 - 具体的にほめましょう。 I like your gesture. Your voice is very clear.
 - 英語でのほめ方のレパトリーを増やしましょう。
 - HPで第2回講座のほめ方を参照しましょう。

3 段階の動機付け

③ 行動後（授業後）段階

- できなかったことではなく、**できるようになったこと**を振り返らせましょう。
- **振り返りシートの活用**
- 振り返りシートでは、他人との比較ではなく、自分の中で**どれだけ成長できたかにフォーカス**を当てる。
- **ここでも、ほめる！**

3. 英語嫌いにさせないためには

- 文法の説明をしない。
 - 文法は中学校から指導内容に入る。
- 語順への意識
 - Ken can eat meat.
 - Meat can eat Ken.
- 正確さだけを追求しすぎない。意味が通じることが大切。
- コミュニケーションの中で正しい英語をインプットする

「リキャスト」のススメ

文字指導はゆっくり、ていねいに

- 意識調査から、中学生の英語が嫌いな理由第3位に
「文字が読めない（発音できない）・書けない。」
- 英語は、「綴りと発音の一致度が低い言語」。
- 日本人が困難を覚えるのは「当たり前」。

文字指導はゆっくり、ていねいに

- 小学校では、**できるだけ耳で覚え、口で言える**英語を増やしましょう。
- 豊富な音声情報は、中学校で発音とつづりの関係をおぼえるときに役に立つ。
- アルファベットには**名称だけでなく、音がある**ことも指導しましょう。
 - 例：『We Can!』の「jingle」(p.13)の活用

ご清聴ありがとうございました。

明海大学 金子 義隆